災害対策本部を設置

雲仙・普賢岳溶岩ドームの崩落を想定した避難訓練

9月13日、本市で初めてとなる溶岩ドーム崩落を想定した避難訓練を実施しました。これは、溶岩ドーム崩落に備え、市民の生命・財産を守り、被害を最小限に食い止めることを目的とするもので、雲仙復興事務所で作成した大地震による溶岩ドーム崩落シナリオに基づき実施しました。

訓練では、市長を本部長とする災害対策本部が深江町瀬野地区と大野木場地区の住民の皆さんに防災行政無線で避難指示を発令し、それを受けて、住民の皆さんは真剣な表情で避難場所に避難しました。また、避難所では応急救護訓練なども実施し、防災の意識を高めました。

訓練の様子

～命を守る行動は、日ごろの備えと訓練から～

参加者の表情は誰もが真剣そのもので、非常に心強く感じました。人は、火山活動を止めることはできませんが、被害を極減（減災）することはできます。災害に際して、「ここは安全だ」「家（うち・私）は絶対大丈夫だ」と油断したときが一番危険な状態です。

住民の皆さんも避難の情報を受けた場合は、今回の訓練を思い出し、自分の生命は自分で守ることを基本として直ちに避難行動をとってください。

危機管理専門員 **山﨑 智文さん**

元陸上自衛官（平成27年７月１日から勤務）

災害について学んでみませんか？

旧大野木場小学校被災校舎

土石流被災家屋保存公園

火砕流で焼き尽くされた校舎や土石流で流され土砂に埋まった家屋が災害遺構として保存されています。

これらの遺構は、島原半島世界ジオパークの「災害と復旧」をテーマとしたジオサイトとして活用されています。

ジオガイドの説明を聞きながら、これらの遺構について学んでみませんか？

●ジオガイドについて

問（一社）島原半島観光連盟　☎０９５７（６２）０６５５

島原市平成町１－１　雲仙岳災害記念館内

料お問い合わせください。

自主防災組織の活性化

平成７年に発生した「阪神・淡路大震災」では、家屋の下敷きになった人のうち周辺の人に助けられた人の割合は約63％、自力ではい出した人は約35％、救助隊に助けられた人はわずか２％弱というデータがあります。このように大災害時においては、道路寸断や人手不足により救助隊による救出には限界があります。

このため、大災害が発生した場合は、周辺の住民同士の助け合いの「共助」が非常に重要です。この助け合いを組織的に実施できるのが、自主防災組織の活動です。

本市では、自主防災組織の活動を促進していただくため、防災資機材の購入と訓練を実施するための費用を一部補てんする補助事業を実施しています。また、自治総合センターではコミュニティ助成事業を実施しています。自主防災組織活動の充実強化に活用ください。

コミュニティ助成事業の申請方法など

申請書を市から県を経由して自治総合センターへ提出する必要があります。申請を検討している団体は、事前に下記へご相談ください。なお、申請した事業に対する助成の採択（可・否）は、自治総合センターが決定します。申請すれば必ず助成されるものではありませんので、ご了承ください。

内防災資材購入（上限２００万円）

〆10月30日㈮

問総務課防災交通班

☎０５０（３３８１）５０２０

大野木場小学校 メモリアルデー2015

災害・被災状況を講話された石川嘉則さん（当時深江町消防団長）

噴火災害を受けて生き残ったイチョウの木

平成３年９月15日、旧大野木場小学校の校舎や体育館は火砕流によって焼失しました。大野木場小学校では９月15日をメモリアルデーとし、毎年、メモリアル集会を通して、噴火災害の記憶を後世に伝えています。

今年も９月15日に「大野木場メモリアルデー２０１５」を実施しました。　集会では、災害学習に取り組んだ５年生が作成したハザードマップを使った発表をした後、災害当時、深江町消防団長だった石川嘉則さんが旧校舎が被災したときの状況などについて講話を行いました。

最後に、噴火災害を受けて生き残ったイチョウの木をモチーフにした詩の群読・歌「生きていたんだね」を全校児童で合唱し、これからも噴火災害のことを伝えていくことを誓いました。

南島原市 女性消防団 誕生

女性消防団を採用する動きが全国的に広まる中、本市消防団でも女性消防団が誕生しました。団員は保育士や主婦、会社員など14人で、９月１日（防災の日）に辞令が交付されました。